

■出演者プロフィール



ピアノ：イリヤ・ラシュコフスキー Ilya Rashkovskiy, *Piano*
ロシア出身。5歳よりピアノを始め、8歳でイルクーツク室内オーケストラと共演。1995年イタリア・マルサラ市の国際コンクールで優勝。98年ウラジミール・クライネフ国際コンクールに優勝し、本格的な演奏活動を開始。同年にロストロポヴィチ財団の奨学金を授与される。これまでにウラジミール・クライネフ、M.リビツキらに師事。2001年ロン＝ティボー国際音楽コンクール第2位、05年アシュケナージが審査員長を務めた香港国際ピアノコンクール優勝、07年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位、11年ルービンシュタイン国際ピアノコンクール第3位受賞などを経て、第8回浜松国際ピアノコンクールで見事優勝。これまでに、マリンスキー劇場管弦楽団、都響、東響、新日本フィル、神奈川フィル、名古屋フィル、京都市響等のオーケストラと、また、ゲルギエフ、井上道義、T.フィッシャーらと共演。室内楽にも積極的で、クララ＝ジュミ・カン、ボムソリ、庄司紗矢香、須川展也などと共演している。「チャイコフスキー：四季、ピアノ・ソナタ」、「ショパン：練習曲集全曲」、「ムソルグスキー：展覧会の絵」、「スクリャーピン：ピアノ・ソナタ全集」等、録音も多く、いずれも高く評価されている。



©武藤章

ピアノ：小川典子 Noriko Ogawa, *Piano*
リーズ国際ピアノコンクール入賞以来30年以上、英国と日本を拠点に国際的で多彩な活動を展開中。BISより40枚近いCDを発売。2021年には世界初録音のR.ドゥヴニオン「クライスレリアーナ」、「サティ：ピアノ独奏曲全曲集Vol.4「ルラーシュ・シネマ」」が次々と発売された。2013、14年にBBCプロムスに連続出演。ポーランド放送響、モスクワ放送響、サンクトペテルブルグ響、BBC響などと共演、また世界各国の音楽祭でリサイタルやマスタークラスを行う。リーズ国際、グリーグ国際、クリーブランド国際コンクール審査員。浜松国際ピアノアカデミー音楽監督。浜松国際ピアノコンクール審査委員長。国際音楽コンクール世界連盟役員。英国ギルドホール音楽院教授。東京音楽大学特任教授。ミュゼザ川崎シンフォニーホール・アドバイザー。ジェイミーのコンサート主宰。文化庁芸術選奨新人賞受賞。
オフィシャルHP <http://www.norikoogawa.com/>

フェスタサマーミュージザ KAWASAKI 2022

ミュージザ川崎シンフォニーホール

超絶技巧のロシアン・ピアノニズム

Ilya Rashkovskiy & Noriko Ogawa, Piano Duo Concert

オーケストラのあの人気曲を2台ピアノで!

7/31

■開演

17:00

■終演予定

19:00

本公演はライブ配信を実施しております。客席内と舞台上に映像カメラが入りますので、予めご了承ください。

出演

ピアノ：イリヤ・ラシュコフスキー Ilya Rashkovskiy, *Piano*

ピアノ：小川典子 Noriko Ogawa, *Piano*

曲目

ボロディン(中原達彦 編)：歌劇「イーゴリ公」から「だったん人の踊り」 (14分)

Borodin (arr. Tatsuhiko Nakahara): Polovtsian Dances from opera "Prince Igor"

ストラヴィンスキー：バレエ音楽「春の祭典」 (34分)

Stravinsky: Le Sacre du printemps

第1部「大地礼讃」	第2部「生贄の儀式」
序奏	序奏
春の兆し(乙女たちの踊り)	乙女たちの神秘的な踊り
誘拐の遊戯	選ばれし乙女への賛美
春の Rond	祖先の召還
敵対する部族の遊戯	祖先の儀式
賢者の行進	生贄の踊り(選ばれし生贄の乙女)
大地へのくちづけ	
大地の踊り	

—休憩(20分)—

ラフマニノフ：交響的舞曲 作品45 (34分)

Rachmaninov: Symphonic Dances, Op. 45

第1楽章 ノン・アレグロ

第2楽章 アンダンテ・コン・モート(テンポ・ディ・ヴァルス)

第3楽章 レント・アッサイー・アレグロ・ヴィヴァーチェ

※演奏時間は目安です。

※出演者・公演内容につきましては変更が生じる場合がございます。

ホールアドバイザー小川典子企画

歌曲の世界 vol.2

■2023年2月25日(土)14:00開演

【出演】 寺田功治(バリトン) 小川典子(ピアノ)

※未就学のお子様のご入場はご遠慮ください。

《公演の詳細は8月発表予定》

<p>●感動をもう一度！アーカイブ配信で本日の演奏をお楽しみいただけます。</p> <p>配信期間：公演翌々日12:00～8/31(水)23:59</p> <p>1,000円 ※ミュージア友の会割引あり</p> <p>配信の詳細はこちら https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/ticket/ticket_online</p>	<p>●アンコール曲 ●ほぼ日刊サマーミュージザ ●アンケート ●パートナーショップ特典 ●サマーミュージザの特設サイトよりご覧ください。</p> <p>https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/</p>
--	--

ミュージザ川崎シンフォニーホール ホールスポンサー		ミュージザ川崎シンフォニーホールの公演事業は、ホールスポンサーの皆様によって支えられています。	
<p>法人</p> <p>【特別賛助会員】</p> <p>川崎幸病院 川崎信用金庫 川崎フロンターレ キヤノン株式会社 サントリーホールディングス株式会社 ジェフト株式会社 三井不動産グループ</p> <p>【賛助会員】</p> <p>税理士法人あおぞら会計 味の素株式会社 川崎事業所 株式会社イープラス NTTアドバンステクノロジ株式会社 ENEOS株式会社 有限会社エムシーエス・デザインズ 神奈川臨海鉄道株式会社</p>	<p>川崎アゼリア株式会社 公益社団法人川崎市医師会 川崎市信用保証協会 公益社団法人川崎市病院協会 一般社団法人川崎市薬剤師会 川崎鶴見臨港バス株式会社 川崎日航ホテル かわさきファーズ株式会社 川崎臨港倉庫埠頭株式会社 株式会社きんでん ケイジーケイ株式会社 京浜楽器株式会社 株式会社さいか屋 川崎店 公益社団法人JFE21世紀財団 株式会社シグマコミュニケーションズ セレサ川崎農業協同組合 大本山川崎大師平間寺 高橋昌也税理士・FP事務所</p>	<p>株式会社デイ・シー 東亜石油株式会社 株式会社東芝 東洋ロザイ株式会社 びあ株式会社 ホテルメトロポリタン 川崎 ヤマハサウンドシステム株式会社 株式会社ヨドバシカメラ</p> <p>* 大宮町町内会</p>	<p>個人</p> <p>阿部 孝夫 新井 智彦 市橋信一郎 井上 敏昭 宇佐美清一 遠藤 智和 大越麻美子 大塚 具幸 小笠原 将 岡野 功 小野 洋彰 金山 直樹 喜多 統一 木伏 源太 久住 映子 黒川 裕子 小菅みつほ</p> <p>後藤 実 小林 知子 斎藤 隆徳 佐伯 昇 佐藤 晴茂 鈴木 徹 関口 浩・三代子 高橋 美子 竹内 啓介 都築 豊 中村紀美子 西山 英昭 長谷川喜代江 濱尾 泰 林 直人 廣瀬 治昇 前田 泉</p> <p>松本 武巳 山内 利夫 山下 啓史 山田 昌克 A. A D. Y M. C N. A T. Y</p> <p>他匿名14名</p> <p>敬称略五十音順</p>

<p>ホール内は小さな音でもよく響きます。ご協力をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏中の入退場はご遠慮ください。 全席指定の公演です。ご自分の席でお聴きください。 開演中は携帯電話、スマートフォンなど全ての電子機器は電源をお切りください。タブレット端末など光を発する機器も、周囲の方の鑑賞の妨げとなりますので、ご使用にならないようお願いいたします。 時計のアラーム・時報などは設定の解除をお願いいたします。 許可のない写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。 	<ul style="list-style-type: none"> 鈴のついたアクセサリ、お荷物など、また、アメの包み紙を開ける際は、演奏中に音が出ないように十分ご注意ください。 演奏中の会話はお控えください。 曲が終わったとき、音が消えゆく余韻を十分に味わってから拍手をお送りください。 館内は飲食禁止となっております(ロビーでの水分補給を除く)。 <p>【補聴器等をお使いの皆さまへ】 ハウリングの発生を避けるために、補聴器等が正しく装着されていることをご確認いただけますよう、よろしくお願いいたします。</p>
--	---

△ 新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、ご協力をお願いいたします。

【お客様へのお願い】	【休止・停止中】
<p>ご協力ください マスクの常時正しい着用 / 手指消毒 / ロビーでのお客様同士の間隔の確保 / 必要最小限の会話 / 終演後の分散退場</p> <p>ご遠慮ください プラボー等、出演者への声かけ / 出演者への面会、花束・プレゼント</p>	<p>クローク / ドリンクコーナー / 冷水器 / ブラケットの貸し出し</p> <p>※万一、クラスター(集団感染)の発生が明らかになった場合、保健所等に入場者の情報を提供する場合もございます。 ※新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」や神奈川県LINEコロナお知らせシステムのご登録をお願いいたします。</p>

主催：川崎市、ミュージザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)
後援：川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、OTTAVA
映像・音響制作：YouClassics
配信協力：株式会社 ぶらあほホールディングス、エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社
助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



ロシア性の創造——中世文学とエキゾチズム

ボロディン：歌劇「イーゴリ公」から「だったん人の踊り」

歌劇「イーゴリ公」は、同時期の史実に基づいて12世紀末に成立した『イーゴリ遠征物語』を原作としている。国家としてのロシアの黎明期の古典を取り上げ、それに沿うような音楽をつける——、医学と化学を本業とする「日曜作曲家」アレクサンドル・ボロディン（1833～1887）にとって、しかも未だロシア語のオペラ創作の指針が定まらなかった時代であって、これは大いなる難題だった。ボロディンは「イーゴリ公」に18年間もの間取り掛かるが、結局作品を完成させられぬままこの世を去った。現在演奏されるのは、主としてグラズノフとリムスキー＝コルサコフが引き継いで補筆完成させたものである。本日の演奏は中原達彦編曲の2台ピアノ版による。

こんにち単独でも頻りに演奏される「だったん人の踊り」（正しくは「ポロヴェツ人の踊り」）は、歌劇の第2幕、敗北し捕虜になったイーゴリ公の勇壮さに感銘を受けたポロヴェツ人の長が催した盛大な歌舞の場面で奏でられる。この場面は、その旋律と和声の彩により生み出されたエキゾチックな雰囲気もあり、すでに20世紀初頭からロシア国内外で大人気を博した。著名な興行師ディアージェレフが主宰してパリで行われたロシア音楽演奏会シリーズ「セゾン・リュス」の記念すべき第1回でも、ロシアを象徴する楽曲の一つとして取り上げられた。原作で、冒頭の鷹揚な旋律に乗せて歌われるのはポロヴェツ人に捕虜になった人々による望郷の合唱。勇壮な場面では、武装した男たちが踊り、コンチャークを称える合唱が高らかに歌い上げられる。

ロシア性の輸出——古代ロシアの「自然力」

ストラヴィンスキー：バレエ音楽「春の祭典」

「ポロヴェツ人の踊り」がロシア国外で好評を呼んだのと同じく、1913年の同じくディアージェレフの「セゾン・リュス」で初演されたイーゴリ・ストラヴィンスキー（1882～1971）の「春の祭典」もまた大評判——あるいは大スキャンダル——を巻き起こしたことはよく知られている。リョーリフの装飾とニジンスキーの振り付けによる視覚的効果、そして新奇な音楽は、一体となってパリの観衆に激烈な印象を与えたのだ。ボロディン、ストラヴィンスキーの両作品はかけ離れた響きを持つように見えて、そのどちらもディアージェレフによるロシアの輸出という戦略上に位置した作品という意味では、明確に歴史的文脈を共有している。

音楽は「大地礼讃」と「生贄の儀式」の二部からなっており、ストラヴィンスキーは大地への礼賛、誘拐の遊戯、演舞、生贄の選別と死といった古代ロシアの異教的儀式を、民謡を引用しながら力強く想像力豊かに描いている。このような内容は、当時のロシア文化で持ち上がっていた、人間の文明文化と対立する「自然力」の考えに沿っていると言われる。このような同時代思想が、バレエという総合芸術の形で西欧に輸出された事実は興味深い。ストラヴィンスキー自身による2台ピアノ編曲は、初演と同年の1913年にオーケストラ・スコアに先立って出版され、その充実した内容で演奏会作品として人気を博している。

ラフマニノフの白鳥の歌——失われたロシアを求めて

ラフマニノフ：交響的舞曲

1917年の十月革命によって、ロシアの人々の生活は大きく揺るがされた。海外に亡命した貴族、インテリゲンツィアは多く、セルゲイ・ラフマニノフ（1873～1943）もまたその一人であった。国外でも作曲家を活動の軸としたストラヴィンスキーとは違い、ロシアでも稀代の演奏家として知られたラフマニノフは、西欧とアメリカでピアニストとして多忙な演奏活動を送り、自然と作曲に費やす時間は少なくなっていた。

彼のロシア出国後の作品は、そのほとんどがロシア国内で構想されたものを仕上げたものが多く、また望郷の念がその中に響いていると指摘されることも多い。実際ラフマニノフの最後の作品となった「交響的舞曲」の中にもロシア時代を回顧するような素材が用いられている。しかし、そのエネルギー溢れる内容や美しく織り上げられた旋律からは、ラフマニノフの作曲への意欲や靈感が失われていないこともまた感じさせる。

「交響的舞曲」の2台ピアノ版は、管弦楽版の初演の翌年、1942年8月のプライベートな会合で作曲者自身とホロヴィッツという二人の名手によって初演された。細部まで緊密にモチーフが編み込まれた勇壮な第1楽章、メランコリックなワルツを軸とした第2楽章、スペイン風の情熱的なリズムにより、またグレゴリオ聖歌の「怒りの日」や自作「徹夜禱」（1915）の「主よ爾は崇め讃めらる」からの引用が聞かれる象徴的な第3楽章からなる。

コラム

浜松国際ピアノコンクールとは？

文＝高坂はる香

イリヤ・ラシュコフスキーが2012年に優勝した、浜松国際ピアノコンクール。1991年に創設され、以後3年に一度、静岡県浜松市で開催されている。今では世界の主要コンクールの一つに数えられ、多くのハイレベルな若手が出場するようになった。2018年の第10回からは小川典子が審査委員長を務める。

浜松コンクールの国際的な評価が高まった理由の一つは、ここで優勝したピアニストが、のちに世界トップの歴史あるコンクールでさらなる成功を収める例が続いたこと。近年だと、昨年話題となったショパン国際ピアノコンクールで反田恭平と第2位をわけたアレクサンダー・ガジェヴが、2015年浜松の優勝者。そして、10代のうちに浜松で最高位に輝いたのちショパンコンクールに優勝したラファウ・ブレハッチやチョ・ソンジンの例は、特別な快挙として語りつがれている。直木賞を受賞して注目された恩田陸の小説「蜜蜂と遠雷」の舞台である「芳ヶ江国際ピアノコンクール」は、優勝者がのちに「Sコンクール」で成功するジグクスを持つコンクールとして描かれているが、そのモデルこそ、まさにこの浜松コンクールだ。



ラシュコフスキーが出場した第8回コンクールの模様

©浜松国際ピアノコンクール

ヤマハやカワイという日本が世界に誇るメーカーがある〈音楽のまち〉浜松を拠点とするだけに、コンクール期間中は、街をあげてコンクールが盛り上げられる。市民の協力により成り立つ素敵な制度の一つが、次の舞台に進めなかったピアニストを受け入れるホームステイだ。彼らはその挑戦を終えたあと、日本の家庭や生活文化に触れ、ときに近隣の学校や施設でコンサートを行いつつ、滞在を楽しむ。このコンクールは、こうして“親日家”ピアニストを世界に増やすことにも一役買っている。